

学校教育目標	「自ら学ぶ生徒」「心豊かな生徒」「たくましい生徒」	達成度 ほぼ達成（8割以上） 概ね達成（6割以上） 変化の兆し（4割以上） 不十分（4割未満）
目指す学校像	「学びの学校」「落ち着いた学校」「信頼される学校」	

※学校関係者評価実施日とは、学校関係者評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	
学校関係者（教職員を除く）	5名
事務局（教職員）	4名

学 校 自 己 評 価						
領 域	年 度 目 標			年 度 評 価（令和7年2月21日現在）		
	現状と課題	重点目標	具体的方策	重点目標の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
組織運営	・教員が各々の分掌において、様々なアイデアを出せる者が増えている。しかし、まだまだ遠慮がちな教職員が多いことも事実である。これからの学校運営には若い職員の感覚や意見が必ず必要となってくる。職員会議等で全員が事案に対し、積極的に自身の考えを述べられることやそれができる雰囲気づくりが望まれる。 ・不登校生徒は増加傾向にある。しかし、そのような生徒に対してオンライン授業は必ずしも効果的ではない。家庭との連携を深め、効果的な学習保障を行う。不登校生徒の支援率を100%とする。	○若手、ベテランそれぞれの良さを生かし、組織的、機動的な組織を確立する。	○自己評価シートを活用し、それぞれの経験年数や資質能力に合った目標や方策を設定させ、チームとして若手・ベテランで学校運営に参画する意識をもたせる。	○自己評価シートに対する指導助言を行ったことにより、目標を達成した教職員が増えた。また、日常において声掛けをし、若手教職員を受容し学校運営に参画する意識を高めてきた。	A	・不登校支援について、不登校等により自宅でオンライン学習をした場合出席扱いとなるようにしたが、一人一人に応じた学びの評価で課題がある。学校に登校できていない生徒が一定数いることから、学校とつながるための居場所（ホットルーム）を作り、運用していく予定。職員会議等で全員が議案に対し、積極的に自分自身の考えを述べられる場の設定とそれができる雰囲気づくりが望まれる。
		□不登校生徒やその保護者とのかわり信頼関係を続け、信頼関係を構築する。	□ICTを活用し、オンラインによる授業、アプリソフトを使った学習、進路指導、担任や相談員との教育相談を行う。 □不登校生徒の保護者対象の教育相談会を各学期に行い、保護者を孤立させることなく元気にする。	□教育相談的手法を発揮し、生徒や保護者への適切な対応で、不登校生徒支援率100%達成した。 □不登校生徒の保護者相談会を実施し、本校を含めた鳩ヶ谷地区の参加保護者の不安を解消することができた。	A	
教育課程	学力学習状況調査の結果により、生徒を伸ばした教科の授業を見合う機会を設定する必要がある。また、学力学習状況調査では図ることができない、家庭環境や成育歴なども個別最適な学習には必要な情報であることからして、生徒の情報共有を行う必要があると考える。ICTの活用に関してはオンライン授業等のルール作りを行っていく必要がある。	○生徒一人一人の力を把握し、その生徒に合った学習を行う。家庭との連携を密にし、個別最適な家庭学習や課題を提示する。	○生徒が主体的に家庭学習を行えるよう、埼玉県学力・学習調査等をもとに一人一人の学習状況を把握し、個別最適な課題を与える。	○授業中は、生徒同士の話し合い学び合い活動等を積極的に取り入れるなど方策を示し、学ぶ意欲を高めた。定期テスト前に補習をしたり、冬休みに3年生対象の学力アップ教室を実施し、一人一人の学習状況の改善を図った。	B	・国や県の学力調査結果により、生徒の学力を伸ばした教員の授業を見て指導技術を学ぶ機会を設定する必要がある。さらに、個人の教員のよい取組を学校全体の取組に広げることを通して、生徒の学力を組織的に高めていき、八幡木中学力向上のスタンダードを作っていくたい。
		□市委嘱研究で道徳の研究を進め、授業力の向上につなげる。	□道徳を先進的に実践している学校等の情報を校内研修や推進委員会等で研究をする。	□先進校の授業参観や指導者を招聘した授業改善に取り組んだ。市委嘱研究として、道徳の授業で発問を吟味するなど指導方法の工夫改善を進めた。	B	
開かれた学校づくり	・アフターコロナとして、行事等を多くの保護者に参加いただけたことは大きな成果だと思う。また、HPの更新も積極的に行うことができた。次年度への課題としては、地域との連携を強化していくことである。生徒の地域を生かした学び、学習保障や不登校支援を充実させたい一方で、働き方改革や部活動の地域移行等、学校だけでは解決が難しい問題を地域の力を借りながら行うことである。	○学校の様々な教育活動について、保護者や地域の方に参加していただく。	○保護者メールや通知、HP、学校運営協議会、PTA、おやじの会で行事を広める。	○日常の活動状況や行事の様子をHP等を使い広く広報できた。HPの更新やメール配信も積極的に行うことができた。多くの保護者や地域の方にご来校いただいた。	A	・課題は、地域との連携を進めて地域の人材を生かした生徒の学びや不登校支援を充実させることである。さらに働き方改革や部活動の地域移行等、学校だけでは解決が難しい問題を行政や地域の力を借りながら行っていく。
		□学校HPの積極的な更新を行い、保護者・地域に公開していく。	□担当を中心に、各学年や担当の教職員がHPを更新できるシステムを作る。写真撮影を行った教職員がHPにUPする。	□学年の行事は学年担当教員が、生徒会行事は生徒会担当がHPのアップをすることはできた。担当によりアップの頻度に差があることが課題である。	B	
教職員の資質向上	・まだまだライフワークバランスに対する意識が低い。若い職員が多いにもかかわらず、昔ながらの時間の使い方をしている場面が見受けられる。ライフワークバランスに関する研修等をもち、根本的な意識改革を行い、自身の時間をもつことが、生徒へのより良い指導につながっていくことを理解させる必要がある。	○教師として生徒を伸ばすことのできる力を身につける。また、教員以外の社会を学ばせ、社会人としての素養を身につけさせる。	○教員同士で授業の参観を行うとともに、校内研修等で様々な事例を用意し、広い視野で社会人としての素養を学ばせる。	○教員がお互いの授業を見合う機会が増えている。授業参観後、参観者が若い教員に指導をする機会が増えた。若い教員のICT活用方法をベテラン教員が学ぶ機会になった。	B	・ワークライフバランスに対する意識を持つ教員が増えてきている。健康第一に考えが定着し、病休者ゼロである。引き続きワークライフバランスに関する研修等をもち、オンとオフを切り替えて自分自身の時間をもつことが、よい指導につながっていくことを理解させていく。
		□様々な経験をし、指導の幅を広げるためにも、ワークライフバランスを考慮し、視野を広げる時間を作る。	□管理職からの一方的な時間削減ではなく、働き方改革推進委員会によるボトムアップの改革を行う。	□先輩から若手への助言をもとに、健康第一に考える勤務、時間を意識した勤務を進めた。学期末に5時間授業、4時間授業を1週間ずつ設け、放課後のゆとりにより働き方の改善を進めた。	A	
施設・設備等の管理	・できる範囲での修繕はおこなったが、大規模な修繕が必要な場所であるトイレや給食調理室やステップルームのエアコン設置については、来年度も行政に強く働きかけていく。	○老朽化が激しい箇所、特にグランド、トイレの改修に見通しを付ける。	○校内巡視を行い、老朽化による危険箇所の早期発見を行うとともに、関係各課、業者と折衝しながら、改善策や対応策を検討する。	○旧金工室・準備室を第3会議室に改修し、夏季休業中に中庭・正門駐車場改修工事が終了。本年度中にステップルームのエアコン設置完了予定。校内巡視をもとに、計画的に素早い修繕を徹底し事故ゼロだった。異常箇所は教頭と相談しながら、早期修繕を行った。	A	・第1校舎トイレの改修が2年計画で決まった。R7年度は西側トイレ改修を夏休みに実施予定。大規模な修繕が必要な場所であるグランド改修、給食調理室のエアコン設置については、来年度も行政に強く働きかけていく。

学 校 関 係 者 評 価	
※実施日	令和7年2月25日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
・保護者の学校評価で「学校の取組状況がわからない」という意見が複数の項目である。学校の取組状況をHPやメールを活用して随時伝えて欲しい。 ・保護者の教育相談部会は効果ある取組である。参加した家庭の児童が、その後岸川中のほっとルームに通い始めた。以前は大宮にある不登校の支援施設に通っていたので、保護者の負担が軽くなった。親のケアが重要。	
・オンライン授業参加の出席扱いについて、1日6時間の全て視聴で出席とするのではなく、1時間でも視聴すれば出席になることがよい。 ・現在のオンライン授業は、その時間だけ視聴できるが、オンデマンド配信ができるとさらによい。生徒の質問はチャット機能を使って対応していることがよい。	
・受験に向けて、学力アップ教室で生徒が基礎基本の定着のため真剣に取り組んだ。講師が外部から来ていることで、生徒は緊張感を持って取り組めた。	
・日課にある朝のモジュールは、課題もあり良さもある。次年度に向けて、10分間で何ができるのか検証する必要がある。工夫をすればできることはもっとありそうである。	
・特別支援学級の現在の状況として、交流学級で授業を受けている生徒がいる。また、子育て相談課の担当やスクールソーシャルワーカーの支援により改善が見られたケースがある。 ・生徒は特別支援学級の理解を深めるため、校長による入学式、始業式での講話や学年集会で6組の仲間と共に学ぶことの意義について話をしている。 ・主任児童委員からトルコ語の保護者向け資料として「つながるKITAP」日本語トルコ語会話集を紹介いただいた。	
・学校の電話対応時間(7:50～17:50)以外で保護者は相談したいことがあったが、繋がらない。学校として、生徒指導など必要があるときは留守電話を解除して対応している。時間内に電話連絡をいただけるよう御理解いただく。 ・本校のHP更新を学年ごとにこまめにしているの生徒の様子がよくわかる。情報の偏りがなく、今後も引き続きお願いしたい。 ・メールの保護者登録状況は非常に高く、登録していない家庭は20件程度で学年により差がある。	
・来年度開設予定の八幡木中のほっとルームは、対象を中学生だけでなく小学生に広げる予定。保護者も含め地域の教育相談拠点校にしたいがまだ確定はしていない。教員を含め、不登校の親の話をよく聞き傾聴が大切である。	
・病休者ゼロは素晴らしい。職員室の担任として教頭先生のおかげである。 ・生徒のスマートフォンでのトラブルは増えている。生徒向けの勉強会だけでなく、保護者向けの研修を継続していく必要がある。教員のアンテナを高くし、初期対応を迅速にしていることがよい。	
・学校開放団体で夕方体育館を使用しているが、上や下の窓やフックが開いていることがある。顧問による最後の見届けをして欲しい。ギャラリーのカーテン奥の窓が開いていることがあった。	